

できたらいいな こんな白川

慶徳小学校では、例年五年生の総合学習のテーマが「白川再発見」ということで、校区を流れる川とのつながりを考える学習に取り組んでいます。今年も「一日河川パトロール」で白川の水源から上流・下流までの様子を見学させてもらい、白川の源のきれいでおいしい水の様子を実感してきました。

そんな五年生が、「水辺の乗校プロジェクト」のことを知り、是非自分たちの考えを生かしてもらいたいと、今回の「白川沿いにあつたら嬉しい施設」の提案に取り組むことになりました。グループで「遊歩道」「すべり台」「カヌーで遊べる川」という視点から提案しました。

ヨーロッパでは、川が生活の一部をしめるような素晴らしい場所がたくさんあります。私たちの住む熊本もそんな場所ができればと個人的に思います。

子どもたちのアイデアが一つでも実現できれば、子どもたちの学習の大きな成果といえるのではないかと期待しています。子どもたちの学習の一部を紹介します。

五年 担任 坂崎 哲也

慶徳小学校五年生の実績

「白川沿いにあつたら嬉しい施設」発表までの取り組み

白川わくわくランド ニュース

第18号

発行

●白川流域住民交流センター
(白川わくわくランド)
〒860-0854
熊本市東子飼町8-55
TEL・FAX(096)346-5454
ホームページアドレス
<http://www.wakuwaku-land.com>
メールアドレス
wakuwaku@wakuwaku-land.com

子どもたちが提案した白川及び河川敷

- ① 100m走ができる遊歩道
- ② バスケットのゴール
- ③ カヌーで遊べる川
- ④ 堤防の斜面登り(ロッククライミング)
- ⑤ サイクリングができる遊歩道
- ⑥ 川までのびる滑り台と飛び込み台

①の理由

- 学校では直線で50m走しかできないので100m走ができる場所がほしい
- ローラースケートができる場所が限られているから、それができる場所がほしい。
- ゆっくり散歩できる場所がほしい。

白川の橋 — ⑭

新代継橋

河口から数えて14番目の橋。橋長は105.6m幅は車道6.5m、歩道は上下おのおの1.5m。

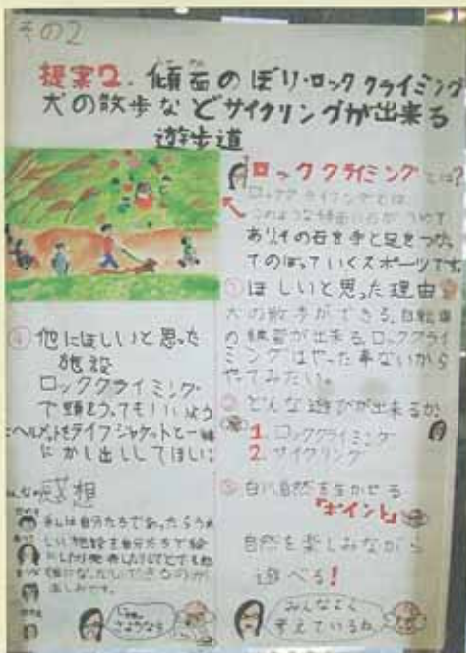
左岸は熊本大学付属病院と旧代継宮の間を走り、白川を渡り国道3号に直角に出会う市道に架かる橋。

約200m下流には代継橋が、上流には銀座橋、安巴橋が約200mおきに架けられた街の中心部にある。

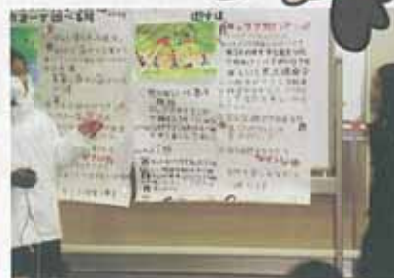


100m走ができる遊歩道

この絵のように10mずつの線を入れて区切してほしい



子どもたちは、地域社会の一人として「身近な水辺がこんなになったらいいな」の想いを応用紙にまとめ発表しました。



発表会

立野 その自然と人

白川と黒川が合流する地点 立野。そこには長い歴史の中で、流れる水の働きで造り上げられた自然や厳しい自然を切り開きながらその地に生きた人々の足跡や新しい技術でさらに人々の生活を良くしていこうとする建造物などを観ることができる。自然・人・創造。その一端を立野で観てみたい。

何回もの火山の噴火と河川の流れによって作り出された立野の地形。長い年月の間に僅かずつ変化しながら独特の地形を作り上げた。そのひとつがポットホール。甌穴（おうけつ）とも呼ばれるこの穴は、まさに自然が創りあげた芸術品。そして、人工物とも思える柱状節理の美しい岩肌が訪れた人の目を見張らせる。



白川と黒川の合流地点から下流をみる。このあたり一帯に自然の石の美がみられる。



柱状節理

熱い溶岩が地表に流れ、地面と大気両面から冷やされていき縮まって割れ目ができる。割れ目は垂直方向につくられ、このようにしてできる割れ目を節理という。

ポットホール

岩のくぼみや割れ目に入った石が、その中で水流によって転がり、少しずつ周りを削り取って円形の穴を成長させたもの。長い年月を費やして削られたもので、大きな石がそのまま穴の中に見られる。自然の力の大きさを感じる。一方「この石は一生外へは出られないんですね。」と言われた国土交通省の課長の言葉に何か熱いものを感じた。ここでの仕事に携わっておられる人の川に対する愛情のことはだろうか。



くろかわばし

便利な暮らしを求めて、人々は川に橋を架けた。立野の黒川には明治時代にできた石橋が残っている。今は閉ざされている道だが右岸側は緩やかな坂道が、左岸側に九十九折の急坂が昔の人の息遣いを感じさせる。それをつなぐのがこの石橋。



阿蘇長陽大橋

橋

立野ダム建設のための取り付け道路に架けられた橋。平成9年からは一般供用されるようになった。

立野ダム建設予定地から約1 km上流の白川と黒川が合流する地点よりやや上流の黒川を跨ぐ位置に架かっている。橋長は276m。橋面高は地面より最大72mあり、橋脚がそびえ立つ。ダム完成時には、52年前の通称6.26水害を想定すると、一時、川底から水面まで約40mほどの高さまで浸水するというが、それに耐える構造になっている。



白川わくわくランド

寺子屋

1月

子飼橋周辺 バードウォッチング

期日 平成17年1月22(土)
場所 子飼橋左岸河川敷
人数 14名



冬季の白川及びその周辺で見かけられる鳥を観察し知ること命のつながりや生態系を学ぶことを目的に2月19日、白川わくわくランド寺子屋で、バードウォッチングを行いました。白川では今、たくさんの冬鳥たちを見かけます。

まず、日本野鳥の会の先生方から今日見られると思われる鳥の説明と双眼鏡の使い方を教えていただき、小雨の中河川敷へ。

わくわくランドの真下にはヒドリガモが遊びに来ています。教えていただいた通りに双眼鏡を合わせ、覗いてみるといつもは見れない鳥のしぐさや様子をまじかに観察出来ました。

子どもたちは、観た鳥、鳴き声を聞いた鳥をチェックシートに記していきます。

一時間ほどの観察時間の後、再びわくわくランドへ。

「さあ～何種類の鳥と友達になれたかな？」

1人ずつ見つけた鳥を発表し、先生が絵合わせをして確認していきます。

合計23種類の鳥を見つけました。

日頃何気なく見過ごしている白川の鳥もみんなの目で見るとたくさんの種類と特徴を知ることができました。

今日の寺子屋で白川や冬鳥を少し身近に感じられたように思います。

2月

河川敷で遊ぼう!紙飛行機づくり!

期日 平成17年2月19(土)
時間 10:00~12:00
場所 子飼橋周辺
人数 16名

大寒を過ぎたばかりの1月22日(土)、冬の河川敷遊びをテーマに白川わくわくランド及び子飼橋際の河川敷で紙飛行機づくりの寺子屋を行いました。

まずわくわくランドで、紙飛行機のしくみ、羽の役割、飛び方などを講師の先生に教わったあと早速3種類の紙飛行機を作ります。ヘソ号、イカ号、ヤリ号。子どもたちはそれぞれ自分の紙飛行機を作り、まずは室内でテスト飛行を・・・

「アーふわりと上に浮いた。」「一回転して飛んだ。」「歓声が上がります。

先生から1つ1つ飛行機の羽の微調整をしていただいて完成!!

次にハガキと割り箸を使って少し難度の高いグライダーを作ります。今度は切り出しナイフやセメダインなどを使うので、そう簡単にはいきません。

何度も確認して翼の位置を決める子ども、重心のバランスを取る子ども。出来たら接着剤が乾くまで置いておきます。

さあ～その間に河川敷で紙飛行機の本番飛行です。最初はうまく飛ばなかった紙飛行機もコツを掴むと滞空時間も長くなりました。最後に参加者全員で堤防の上から競争しました。

家にこもりがちな冬の日、子どもたちは思いっきり河川敷で遊び、自分の手で作った紙飛行機やグライダーをおみやげにわくわくランドを後にしました。



4月~8月

4月からの寺子屋案内

主催
白川流域住民交流センター
(白川わくわくランド)

4/23(土) 9:30~16:30
小島散策
対象 高校生以上
定員 30名 参加費 1,200円

5/14(土) 9:30~16:30
市街地の白川沿いを歩く!
対象 高校生以上
定員 30名 参加費 1,200円

5月未定 19:00~20:30
わくわく講座
対象 高校生以上
定員 30名 参加費 100円

6/4(土) 9:30~16:30
有明海の生き物と環境整備船見学
対象 小学4年以上
定員 15名 参加費 100円

7月未定 13:00~16:00
わくわくお天気教室
対象 小学4年以上
定員 30名 参加費 100円

8/4(木) 9:30~16:30
黒川源流探検
対象 小学4年以上
定員 15名 参加費 100円